

遺跡を回り歴史を学ぶ

エジプト 古代への旅



紀元前3000年頃から3000年もの間栄えた、古代エジプト。
国内に残された古代遺跡を巡る旅へ出かけてみませんか？



周辺には墳墓や小さなピラミッド、参道があり、一帯が墳墓群となっている



カフラー王のピラミッドの参道の入口を守るスフィンクス

展望ポイントから見たギザの三大ピラミッド

世界で最も有名なピラミッド

ギザの三大ピラミッド

Giza

古代エジプト時代に建てられた巨大な石の建造物、ピラミッド。エジプトには120以上のピラミッドがあり、なかでも最も有名なものがギザの三大ピラミッドだ。ピラミッドは写真左からメンカウラー王、カフラー王、クフ王で、最も高いクフ王のピラミッドは高さ137m(建造当時は146m)。平均2.5トンの石を約250万個も積み上げて造られており、今から4500年も前にこのような建造物を造るといふ労苦は、まさに想像を絶する。ピラミッドの建造目的はまだ解明されていないものの、ファラオ(王)たちの墳墓という説が有力。

にぎやかなエジプトの首都

カイロ Cairo

1年を通して降水量が少ないエジプトでは、ほとんどの町がナイル川沿いに開けている。地中海へと注ぐ河口寄りのデルタ地帯に位置するのが、首都であるカイロだ。この町ほど「混沌」という言葉がしっくりくる町も珍しい。イスラーム寺院からの祈りの声や走り抜ける車、人々の喧騒……。すべてが渾然一体となり、カイロという町を形作っている。歴史的に見ても、古代エジプト王朝からアラブ、十字軍を経て、オスマン帝国やフランス、イギリスの支配を受けるなど幾たびも領土争いが繰り返された。町はナイル川の東に広がり、観光スポットが多いのはオールドカイロとイスラーム地区。いずれも世界遺産に登録されており、教会やモスクなど古い建物が密集する。



人口約2000万人を要する、中東を代表する大都市

イスラーム地区には古いモスクが建ち並ぶ



巨大なバザール(市場)のハーン・ハリリー。おみやげ探しにぴったり

ツタンカーメンの黄金のマスク



遺跡から出土した貴重な展示が充実

エジプト考古学博物館

The Egyptian Museum in Cairo

カイロの町の中心は、ホテルやレストラン、ショップが集中する新市街。新市街にあるエジプト考古学博物館は、エジプトを代表する見どころのひとつ。歴代ファラオの像や財宝が並び、その収蔵品は17万点以上にも及ぶ。館内は広く、展示品も多いためじっくり見るなら1日あっても足りないだろう。博物館最大の見どころは、あまりにも有名なツタンカーメンの黄金のマスクをはじめとした副葬品。かつてはファラオたちのミイラ20体も展示されていたが、2021年にグランドオープンしたエジプト文明博物館に移送された。

URL: <https://egyptianmuseumcairo.eg>

※ツタンカーメンの秘宝を含む展示物の一部は、下記の大エジプト博物館に移送される予定



1902年に開館した



ファラオたちの財宝を見に行こう

NEW

大エジプト博物館がよいよオープン!

ギザに建築されている大エジプト博物館。日本も資金・技術面の援助をしている博物館だが、幾たびもグランドオープン時期が遅れていた。しかし、2024年ついにプレオープンを迎え、一部展示を要予約で公開している。グランドオープン後はエジプト考古学博物館から移送されるツタンカーメンの秘宝がメインとなり、倉庫に眠っていた秘宝も公開される予定。
URL: <https://grandegyptianmuseum.org>



カイロから南へ ナイル川沿いの古代遺跡探訪

カイロ、ギザから、ナイル川を南下して古代エジプト時代の遺跡を巡ろう。
空路や陸路のほか、ナイル川のクルーズで回ってみるのもおすすめだ。

ファラオが眠る聖なる地

ルクソール Luxor

エジプト王朝の中王国、新王国時代に首都として繁栄したルクソール。町はナイル川を挟んで東西に広がっており、町の中心は東側で、最大の見どころはルクソール神殿と、その北にあるカルナック神殿。西側にはハトシェプスト女王葬祭殿や「王家の谷」と呼ばれる新王国時代の岩窟墓群がある。ここから1922年に発掘されたのが、ツタンカーメンの墓だ。



夜にはライトアップもされるルクソール神殿

ナイル川沿いのリゾート

アスワン Aswan

ルクソールの南約200km、ナイル川の東岸に位置する。南部ヌビア地方への玄関口となる町で、古くから交易の中心として栄えた。古代エジプト時代にはクヌム神やアヌキス女神、ナイル川の神であるハビ神の信仰が盛んで、グレコ・ローマン時代にはイシス神が信仰された。これらの神殿跡が見どころとなっている。



港にはたくさんのクルーズ船が停泊する



聖なる島、フィラエ島にあるイシス神殿

湖に面した巨大神殿

アブ・シンベル Abu Simbel

アスワンの南約280km。ナイル川を堰き止めて造られたナセル湖のほとりに位置する。人口約3000人と町は小さいものの、エジプトを代表する観光名所となっている。観光客たちのお目当ては、古代エジプトの第19王朝ラムセス2世の建設したアブ・シンベル大神殿。大神殿、第一王妃であるネフェルタリのために造られた小神殿の2つから成る。

高さ21mのラムセス2世像が4体並ぶ大神殿



ナセル湖



太古の昔にタイムスリップしたかのよう



ギザの三大ピラミッド

カイロ
ギザ



天井に女神ヌトが描かれたラムセス6世の墓

知っておきたい、エジプトのこと

信仰

エジプトは国民の約9割がイスラム教を信仰するイスラムの国。暦は西暦とイスラム暦の2つが用いられ、イスラムの習慣により土曜から1週間が始まり、金曜が祝日。町には多くのモスクがあり、1日に5回のお祈りの時間には「アザーン」という呼びかけが町中に響き渡る。



カイロのアズハル・モスク。970年に創建された

治安

2024年11月現在、エジプトのナイル川流域には外務省よりレベル1「十分注意」の危険情報が出ている(その他の地域はレベル2~3)。2019年にはカイロで大規模なデモが行われ治安が悪化した。徐々に安定には向かっている。ただし情勢は流動的なので、安全情報を確認しておくこと。



危険な目に遭ったらずは警察へ

おみやげ

エジプトらしいエスニック雑貨が定番のおみやげ。ピラミッドなど古代エジプトをモチーフにしたものからイスラム風デザインの工芸品まで種類は豊富。古代エジプト時代から使われた、植物の繊維から作る紙の一種であるパピルスも人気。おみやげ屋さんのほか、スーク(市場)で探すのもおすすめ。ただし人混みではスリに注意すること。



ピラミッドのオブジェは色、大きさもさまざま



パピルスには偽物も多いので注意して

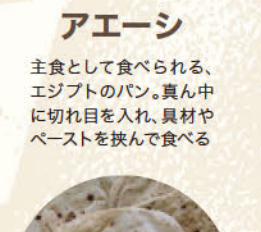
グルメ

豊富な穀物と野菜、香辛料を使った料理が味わえる。肉や魚介も食べられるが、イスラムの国らしく、豚肉を使った料理はない。



コシャリ

現地の言葉で「混ぜる」を意味するおこし、ご飯にさまざまな具材を混ぜ合わせる、エジプトの国民食



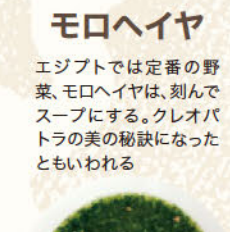
アエーシ

主食として食べられる、エジプトのパン。真ん中に切れ目を入れ、具材やペーストを挟んで食べる



ターメイヤ

つぶしたそら豆に衣を付けて揚げた、エジプト風コロッケ。衣にはゴマが入っており、サクッと香ばしい



モロヘイヤ

エジプトでは定番の野菜。モロヘイヤは、刻んでスープにする。クレオパトラの美の秘訣になったともいわれる



バクラワ

ナッツを包んだパイ生地を重ねて焼き、上からたっぷりのシロップをかけたお菓子。とっても甘〜い

ジェネラルインフォ in エジプト

時差:日本より7時間遅れ。サマータイムは一時廃止されたが、2023年4月に再導入。4月最終金曜~10月最終木曜は日本より6時間遅れになる。
ビザ:入国にはビザが必要。30日間有効の観光ビザなら、カイロ空港で簡単に取得できるため日本で手続きをする必要はない。オンラインでも取得可能。
通貨:エジプトポンド(EGP)(2024年11月現在EGP1=3.14円)
物価:日本よりも安く、1日5000円もあれば十分に

過ごすことができる。カイロなど都市部や観光地はやや割高だが、それでも安い。
ベストシーズン:暑い国というイメージがあるが、冬は寒くコートが必要になることも。観光に適しているのは冬の12~2月。6~9月は非常に暑いので、この時期に行く場合は注意して。なお1カ月のラマダンの時期もある(2025年は2月下旬~3月下旬)。
現地ユースホステル情報:<https://hihostels.com/hostels/?country=Egypt>

より詳しい情報は「地球の歩き方 エジプト」、「arucoエジプト」へ



日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

こどもはおとなに。
おとなはこどもに、
なれる場所。



Hostelling Magazine vol.39



Cover Interview
コウケンテツ
世界中の食卓を
旅した先にあったもの

P.02



Youth Hostel Pick up
南飛騨
赤かぶユースホステル
まじめに、がんこに、40年
何度も訪れたい南飛騨古民家の宿

P.08



Hostelling Magazine
× 地球の歩き方
遺跡を回り歴史を学ぶ
エジプト古代への旅

P.12



鉄道写真家 櫻井 寛
「列車で行こう!」

P.16



松島むうの
晴れときどき旅びより

P.18



YH-GUIDE
ユースホステルガイド
長野県 / 岐阜県 / 愛知県
三重県 / 滋賀県 / 京都府
大阪府 / 兵庫県 / 奈良県

P.20



Hostelling Magazine vol.39
まとめてダウンロード

※本誌の情報は 2024年12月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 真

TEL (03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。